

日本語教育実践研究 (14)・(15)・(16)

コーディネーター 蒲谷 宏

日本語教育実践研究 (14) (15) (16) は、2006 年春学期より新設された科目であり、その目的は、以下のとおりです。

- ・ 授業を担当する実践能力を高めることを目的とした「実践研究」である。(14・15・16 共通)
- ・ 日本語学習を希望する学生に日本語学習の機会を提供する。
- ・ このプログラムの運営を契約講師希望者（日研生）が担当することによって、彼らに日本語教授の機会を提供する。
- ・ センターの日本語教育の充実と日研の教員養成に資する。

また、内容は、次のようになっています。

- ・ 「実践研究」の受講生（実習生）は、初級から中級段階の学習者を対象とした「実習クラス」におけるコースデザイン・授業運営等を行う。
- ・ 「実践研究」（5 時限目）では、実習クラスで行う授業に関する準備・検討・ふりかえりを行う。
- ・ 「実習クラス」（4 時限目）は、日本語教育研究センター設置の日本語講座の受講生により構成された特別クラスで、学習者のレベルは、レベル 1（初級）、レベル 2（初級）、レベル 3（初中級）、レベル 4（中級）にわたる。
- ・ 「実習クラス」では、実習生が交替で授業を担当し、他の実習生は授業を見学する。
また、担当教員・コメンテーターが実習クラスを見学し、5 時限目の「実践研究」で授業運営に対するコメントをする。

実習クラスは、8 週間にわたり行われました。その実践に関する考察をまとめた論考を、他の実践研究と同様に掲載することになりました。実践研究 (14) (15) (16) は、基本的に 3 学期間に及ぶ実践研究の総決算とも言える場であり、そこでの実践を通じた意義のある論考が次々と生み出されることを期待したいと思います。

(カバヤ ヒロシ・日本語教育研究科教授)